

取扱説明書

品質保証書付き

OMRON
3124655-0C

オムロン 電子体温計 MC-687/MC-688 わき専用

医療機器認証番号: 229AGBZX00037000

けんおんくん

予測/実測
ブザーとランプでお知らせ
フラット感温部
前回値メモリ
オートパワーオフ
電池交換可能
収納ケース付き



このたびは、オムロン製品をお買い上げいただきありがとうございます。

■安全に正しくお使いいただくため、ご使用前にこの取扱説明書を必ずお読みください。

■本書は、いつもお手元においてご使用ください。

■本書は、品質保証書を兼ねています。紛失しないように保管してください。

■本書に記載しているイラストはイメージ図です。

All for Healthcare

製品のお問い合わせ、別売品や消耗品のご注文、修理のご依頼は

オムロンヘルスケアお客様サポート
<https://www.healthcare.omron.co.jp/support/>



保証規定・品質保証書

保証規定

1. 取扱説明書、本体貼付ラベル等の注意書きに記載された正常な使用状態で、お買い上げ後1年以内に故障した場合には無償修理または交換いたします。

2. 無償保証期間内に故障して修理を受ける場合は、オムロンお客様サービスセンターにご連絡ください。

3. 無償保証期間内でも次の場合は有償修理になります。

(イ) 使用上の誤りおよび不当な修理や改造による故障および損傷。

(ロ) 買い上げ後の落下、水没などによる故障および損傷。

(ハ) 火災、地震、水害、落雷、その他の天災地変、公害や電源の異常電圧、指定外の使用電源（電圧、周波数）などによる故障および損傷。

(ニ) 品質保証書の提示がない場合。

(ホ) 品質保証書にお買い上げ年月日、お客様名、販売店名の記入のない場合、あるいは字句を書き替えた場合。

(ヘ) 消耗部品。

(ト) 故障の原因が本製品以外に起因する場合。

(チ) その他取扱説明書に記載されていない使用方法による故障および損傷。

4. 品質保証書は再発行いたしませんので紛失しないよう大切に保管してください。

5. 品質保証書は本規定に明示した期間、条件のもとにおいて無償保証をお約束するものです。

したがってこの保証書によってお客様の法律上の権利を制限するものではありません。

6. 補修用部品は製造打ち切り後、最低6年間保有しています。

品質保証書

このたびは、オムロン製品をお買い求めいただきありがとうございました。製品は厳密な検査をおこない高品質を確保しております。しかし通常のご使用をおこなう一方で、不具合が発生しましたときは、保証規定によりお買い上げ後、1年間は無償修理または交換いたします。

※製品の保証は、日本国内での使用の場合に限ります。

This warranty is valid only in Japan.

商品型式名 MC-687 / MC-687-CV / MC-687-SV / MC-687-BA / MC-687-FS / MC-688

ご芳名 _____

ご住所 _____

TEL _____ () _____

※以下につきましては、必ず販売店にて、記入捺印していただいてください。

お買い上げ店名 _____

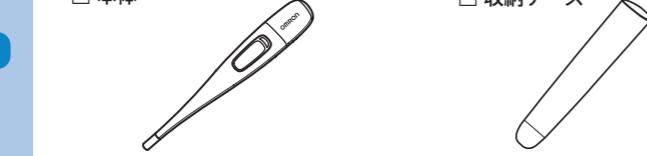
お買上げ年月日 年 月 日

製造販売元 オムロンヘルスケア株式会社

〒617-0002 京都府向日市寺町九ノ坪 53 番地

1 次のものが入っていますか？

□ 次のものがすべてそろっていることを確認してください。
□ 本体



□ お試し用電池（リチウム電池 CR1220×1個）
※お買い求めのときは本体に内蔵されています。

□ 取扱説明書（本書：医療機器添付文書・品質保証書・EMC技術資料付き）
※品質保証書は本書についています。紛失しないようにしてください。

● 不足しているものがありましたら、オムロンお客様サービスセンターにご連絡ください。
（P.9、サポート情報）

2 安全上のご注意

- お使いになる前に必ずお読みください。
- ここに示した内容は、製品を安全に正しくご使用いただき、使用者や他の人々への危害、財産への損害を未然に防止するためのものです。

警告、注意について

△ 警告 誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負うことが想定されます。

△ 注意 誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う、または物的損害*の発生が想定されます。

*物的損害とは、家屋や家財、および畜産やペットに関わる拡大損害を示します。

警告

- 測定中に体温計の近く（30cm以内）で携帯電話やスマートフォンを使わないでください。
▶ 正しい検温できません。病気が悪化する原因になります。
- 乳幼児の手の届くところに保管しない。
または、お子様だけ使わない。
▶ 自分で無理に測ろうとしてけがをする原因になります。

- 電池やねじ、電池カバーは乳幼児の手の届くところに置かない。
▶ 乳幼児が電池やねじ、電池カバーを飲み込む恐れがあります。電池を飲み込むと短時間で食道に穴が開くなど重症化することがあります。飲み込んだときは無理に吐かせようとせずに、すぐ医師の診察を受けてください。
- 検温結果の自己診断や治療をしない。
▶ 自己診断は、病気が悪化する原因になります。医師の指導に従ってください。
- 人の検温以外に使わない。
▶ 正しい検温できません。動物などを無理に測ろうとすると、暴れてけがをする原因になります。
- 本製品はわき専用の体温計なので、わき以外（耳や口腔など）で検温しない。
▶ 正しい検温できません。耳などを傷つける原因になります。
- 本体が水などでぬれた状態で測定しない。
▶ 正しい検温できません。病気が悪化する原因になります。
- 電池を加熱したり、火の中に入れたりしない。
▶ 破裂などにより、けがの原因になります。

注意

- 本体は、防水ではないため、水につけない。
・強い静電気や電磁波のある場所で使わない。
・分解や修理、改造をしない。
▶ 検温値に誤差が生じたり、故障の原因になります。
- 本体を噛まない。
・感温部を強く引っ張ったり、曲げたりしない。
▶ 事故や故障の原因になります。
- 指定外の環境条件で保管したり、使ったりしない。
▶ 正しく検温できないことがあります。

- 電池の+/-極を間違えて入れない。
・指定外の電池を使わない。
・電池の液が目に入ったら放置しない。すぐに多量の水で洗い流し、医師の指導を受ける。
- 電池を使い切ったときや長期間（3ヵ月以上）使用しないときは、電池を本体内に入れたままにしない。
・電源が入ったまま、電池交換を行わない。
・使用推奨期限の過ぎた電池を使わない。
- 本体や収納ケースに強いショックを与えると、落としたり、踏んだり、振動を与えたいため、けがの発生や本体故障の原因になります。

3 なぜ約15秒で測れるの？（予測検温のしくみ）

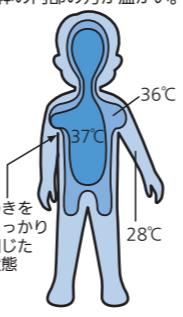
体温とは…

脳や内臓など、温度変化の少ない体の内部の温度のことと言います。

■通常、わきの下で正しい体温を測るには約10分必要
わきの下は温かいように思えますが、ある程度外気に触れているため、体の内部と同じくらいの温度になるまで、しっかり閉じて約10分間かかります。
※このように体の内部と同じくらいに温まったときの温度を「平衡温」といいます。

体の温度分布図

体の内部の方が温かい。



36°C

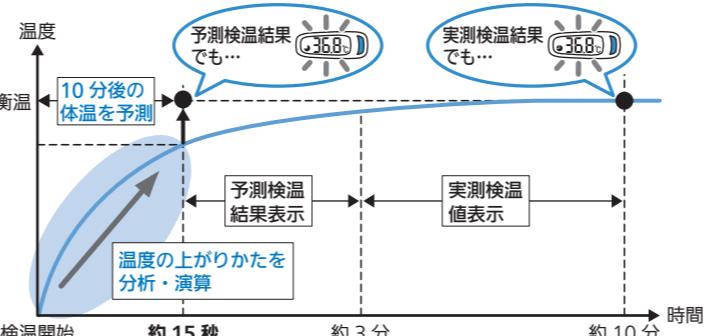
37°C

28°C

わきを
しっかり
閉じた
状態

10分後の体温を約15秒で予測する

この体温計は、検温開始から温度の上がりかたを分析・演算することで、約15秒で約10分後の体温を予測することができます。



※予測検温だけでなく、実測検温もできます。
医師の指示などで、より厳密な体温測定が必要な場合は実測検温してください。実測検温のしかたは、「5.2 実測検温」を参照してください。

4 正しく測るために

検温前の準備

- より厳密な体温測定が必要な場合は実測検温してください。
- 特に医師の指示により検温される場合は実測検温をおすすめします。

・運動や入浴、飲食後は、30分以上あけてから検温してください。

・起床後、動く前に測るか、動き出して30分以上あけてから検温してください。

・連續して検温しないでください。一度電源を切り、30秒以上あけてから検温してください。

・わきの下が汗ばんでいるときは、わきから汗をきれいに拭き取ってから検温してください。

・長時間布団の中にいたりして、熱がこもっているときは、こもった熱を冷ましてから検温してください。

・人の検温以外に使わない。
▶ 正しい検温できません。動物などを無理に測ろうとすると、暴れてけがをする原因になります。

検温時のポイント

体温計を正しくあてて測らないと、精度の高い検温値が得られない場合があります。

【あてる位置】わきの中心にあてる

わきの温度は中心ほど高く、外側は低くなっています。

【あて方】下から押し上げる

体温計を下から押し上げるようにすると

わきの中心にあてやすくなります。

上から差し込むと、わきの中心にあたらない

横から差し込むと、先端がでてしまう



【はさみ方】すき間ができないように わきをしっかりとしめる

はさんだ方の手のひらを上に向け、もう一方の手で肘を脇腹に押さえつけるようにしてわきと体温計を密着させてください。

密着していない場合や、すき間ができると正しい検温値が得られない場合があります。

検温中に体温計が動いたり、当てている位置がずれないように
検温が終わるまで静かにお待ちください。

▶ けがの発生や本体故障の原因になります。

▶ けがの発生や本体故障の原因になります。

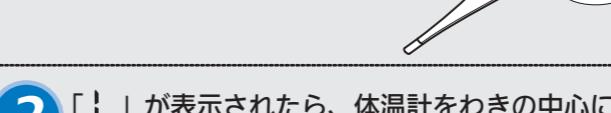
5 体温の測りかた（検温）

- より厳密な体温測定が必要な場合は実測検温してください。
- 特に医師の指示により検温される場合は実測検温をおすすめします。

5.1 予測検温

1 電源を入れる。

電源スイッチを押すと、「ピッ」と音がして、電源が入ります。



2 「L」が表示されたら、体温計をわきの中心に しっかりとしめる。

※P.4「正しく測るために」を確認してから検温してください。



3 約15秒後にブザーが鳴ると、予測検温が終了。 検温結果を確認する。

※体温計にはさみかたや検温時の条件などにより、測定が延長される場合がありますが、ブザーが鳴るまではさみ続けてください。

4 電源を切って、収納ケースに入れる。

電源スイッチを押すと、「ピッ」と音がして、電源が切れます。



5.2 実測検温

※医師の指示などで、より厳密な体温測定が必要な場合

5.1 予測検温の③が終わっても、そのままわきに はさみ続けてください。

予測検温開始から、約3分後に実測検温値表示に切り替わります。
切り替わった直後に表示される検温値

オムロン 電子体温計 MC-687

【使用目的又は効果】

測温部を部位に接触させて、腋窩の体温を測定し、最高温度を保持しデジタル表示すること。

【使用方法等】

- (1) 電源スイッチを押して電源を入れます。
- (2) 表示部が「検温準備完了表示」になっていることを確認します。
- (3) 感温部をわきに挿入し、密着させます。
- (4) 予測検温を終了するまで、本体を保持します。
- (5) 予測検温終了のブザー音で、予測検温結果を確認します。
- (6) 予測検温のみの場合は、電源スイッチを押して電源を切ります。実測検温の場合はそのまま検温を続けます。
- (7) 予測検温開始から約10分で測定が終了しブザー音が鳴ります。
- (8) 実測検温結果を確認し、電源スイッチを押して電源を切ります。
- ・詳細については取扱説明書をよくお読みください。

【使用上の注意】

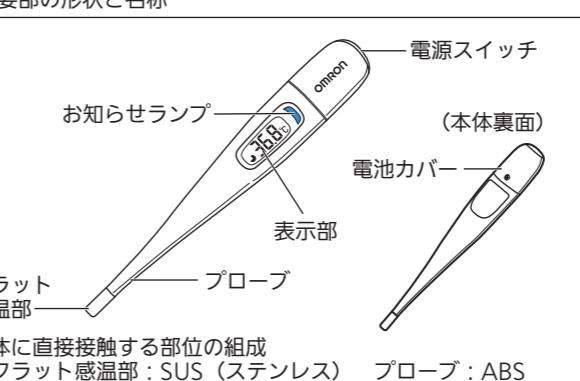
- (1) わき以外で検温しないでください。
- (2) 連続して検温しないでください。一度電源を切り、30秒以上間隔をあけてから、測り直してください。
- (3) 検温中、感温部を検温する部位に密着させるように固定し、空隙はつくらないようにしてください。また、大幅に動かさないでください。
- (4) 電池の電圧が低下すると電池交換マークが表示されますので電池を取り替えてください。
- (5) 運動や入浴後は、30分以上あけてから検温してください。
- (6) 飲食後は、30分以上あけてから検温してください。
- (7) 起床直後の行動開始時期は、比較的激しく体温が上昇しますので、30分以上あけてから検温してください。
- (8) わきの下が汗ばんでいるときは、わきの下を乾いた布で数回拭いてから検温してください。
- (9) 感温部およびプローブは防浸ですが、それ以外(表示部など)は防浸ではありません。本体を水につけないでください。
- (10) 感温部を強く引っ張ったり、曲げたりしないでください。
- (11) 電池やねじ、電池カバーは乳幼児の手の届かないところに置いてください。
- (12) 周囲温度は10~40°Cの範囲で使用してください。

【禁忌・禁止】

- ・検温結果の自己診断、治療は危険ですので医師の指導に従ってください。
- ・自己診断は、病気が悪化する原因になります。【自己診断は、病気が悪化する原因になります。】
- ・人の体温測定以外に使用しないでください。
- ・動物などを無理に測ろうとすると、累れけがをする原因になります。【動物などを無理に測ろうとすると、累れけがをする原因になります。】
- ・乳幼児の手の届かないところに保管してください。
- ・また、お子様だけでのご使用はさけてください。
- ・自分で無理に測ろうとしてけがをする原因になります。【自分で無理に測ろうとしてけがをする原因になります。】

【形状・構造及び原理等】

1.主要部の形状と名称



2.構成付属品

リチウム電池CR1220 (お試し用)	1個
収納ケース	1個
取扱説明書 (医療機器添付文書・品質保証書・EMC技術資料付き)	1部

3.本体寸法及び重量

外形寸法	: 20.1(幅)×136.8(長さ)×12.8(厚さ)mm
質量	: 約14 g (電池含む)

4.電気的定格

電 源	: リチウム電池CR1220×1個 (DC3V)
電擊保護	: 内部電源機器 BF形装着部
消費電力	: 0.01 W

5.作動・動作原理

本製品は、サーミスタの抵抗変化を利用して温度を検出し、測定開始から約15秒後に予測値を、それ以降は、実測値の最高温度を0.1°C単位で表示する電子体温計である。
測定中は、測定開始から約15秒後に予測検温が終了した事を知らせるブザーが鳴る。測定をそのまま続けると、予測検温開始後から約10分後に実測検温終了のブザーが鳴る。

6.性能及び安全性に関する規格等

- (1) 最高温度保持機能: 実測した最高温度値を保持し一定時間表示する
- (2) デジタル表示: 実測した体温をデジタル表示する
- (3) 最大許容誤差: 一般用 ±0.1°C (32.0~42.0°C)
※標準室温23°Cにて恒温水槽で実測測定した場合

※試験は JIS T 1140 : 2014による

: 試験前後の温度表示の差: 一般用 ±0.2°C

※試験は JIS T 1140 : 2014による

: 試験1回目と2回目及び1回目と3回目の温度表示値の差: 一般用 0.1°C以下

※試験は JIS T 1140 : 2014による。一部防浸形に適合。

: 一般用 32.0~42.0°C

: 一般用 0.1°C

: 32.0°C未満のとき「L」を表示、42.0°Cを超えるとき「H」を表示

: サーミスタ

: 予測・実測 (ピークホールド方式)

: デジタル表示3桁+°C表示、0.1°C毎

: +10~+40°C/30~85%RH

7.電源電圧

: 2400~2570

: Bluetooth、WLAN、802.11 b/g/n、RFID 2450、LTE 帯域 7

: パルス変調 217 Hz

: 2

: 0.3

: 28

8.防浸

: 5240

: 5500

: 5785

: WLAN 802.11 a/n

: パルス変調 217 Hz

: 0.2

: 0.3

: 9

9.感温部

: サーミスタ

10.測定方式

: 予測・実測 (ピークホールド方式)

: デジタル表示3桁+°C表示、0.1°C毎

11.体温表示

: 3桁+°C表示、0.1°C毎

12.使用環境条件

: +10~+40°C/30~85%RH

取扱説明書を必ずご参照下さい。

7 おかしいな?と思ったら

表示

原因・対処のしかた

1 Er.0

本体が故障している可能性がある。
▶オムロンお客様サービスセンターまでお問い合わせください。(☞9.サポート情報)

2 RH-

体温計が約40°Cを超えるところに保管してあった。

3 RL-

体温計が約10°C未満のところに保管してあった。

4 Er.0

予測検温中に、わきにはさみながら体温計を動かしたり、体を動かしたりして、温度上昇の分析・演算に障害が生じた。

5 -

周辺空気の影響を受けるところ。

6 -

傾斜・振動、衝撃のあるところ。

7 -

化学薬品の保管場所や腐食性ガスの発生するところ。

8 -

水のかかるところ。

9 -

高温多湿のところ、直射日光があたるところ、暖房器具のそば、ほこりの多いところ、塩分などを含んだ空気の影響を受けるところ。

10 -

10~40°Cの部屋に最低1分間は置いてから、検温してください。

11 -

10~40°Cの部屋に最低1分間は置いてから、検温してください。

12 -

10~40°Cの部屋に最低1分間は置いてから、検温してください。

13 -

10~40°Cの部屋に最低1分間は置いてから、検温してください。

14 -

10~40°Cの部屋に最低1分間は置いてから、検温してください。

15 -

10~40°Cの部屋に最低1分間は置いてから、検温してください。

16 -

10~40°Cの部屋に最低1分間は置いてから、検温してください。

17 -

10~40°Cの部屋に最低1分間は置いてから、検温してください。

18 -

10~40°Cの部屋に最低1分間は置いてから、検温してください。

19 -

10~40°Cの部屋に最低1分間は置いてから、検温してください。

20 -

10~40°Cの部屋に最低1分間は置いてから、検温してください。

21 -

10~40°Cの部屋に最低1分間は置いてから、検温してください。

22 -

10~40°Cの部屋に最低1分間は置いてから、検温してください。

23 -

10~40°Cの部屋に最低1分間は置いてから、検温してください。

24 -

10~40°Cの部屋に最低1分間は置いてから、検温してください。

25 -

10~40°Cの部屋に最低1分間は置いてから、検温してください。

26 -

10~40°Cの部屋に最低1分間は置いてから、検温してください。

27 -

10~40°Cの部屋に最低1分間は置いてから、検温してください。

28 -

10~40°Cの部屋に最低1分間は置いてから、検温してください。

29 -

10~40°Cの部屋に最低1分間は置いてから、検温してください。

30 -

10~40°Cの部屋に最低1分間は置いてから、検温してください。

31 -

10~40°Cの部屋に最低1分間は置いてから、検温してください。

32 -

10~40°Cの部屋に最低1分間は置いてから、検温してください。

33 -

10~40°Cの部屋に最低1分間は置いてから、検温してください。